

2020年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語（No.1）

問題I 次の文章を読んで、後の質問に答えなさい。答えは解答用紙に記入すること。

テレビとラジオを先生にして日本語をひとりで勉強している来日間もない外国人¹が、ある日本人にきいた。「テレビなどで、たえず“やっぱり”ということばがでてきます。どういう意味なのですか」
きかれた方は虚をつかれて、一瞬、たじろぎはしたものの²、
「いいところに気がつきました。いろいろに使われて、たいへん微妙な意味合いのことばです」と前置きして、あれこれ説明してはみたが、やっぱり、どうもうまくいかなかった、そうだ。
あとで国語辞書を調べたら、これも、思ったほど役に立たなかった。代表的な辞書は「やっぱり」は「やはり」の促音化、とある。「やはり」を見ると「(副)もとのまま、前と同様に。なお。やっぱり」とあるだけ。これだけでは外国人はおるか³、日本人にも、やっぱり⁴、わからない。

< 4 >、語義説明に特色のある辞書をひいてみた。これはていねいだ。

- ①(何かしてみたものの)結果が、以前(他の場合)と同じである様子。
- ②違うことが一応は期待されたが、結果的には普通に予測される通りであった。
- ③期待される所を裏切らない様子。

と三通りの用法による語義分析をして、それぞれに用例をあげている⁵。これなら辞書らしいと言ってよい。

国語辞書には“字引”があまりにも多い⁶。ただ言いかえだけしているのだ。後者のような辞書は例外的である。

そのため、日本語を勉強する外国人はひどい苦勞を< 7 >。国語の辞書が当てにならないから、和英辞書をひく。文化国家などと言っている手前、何とも、恥かしい話だ⁸。

和英辞書はどうなっているかと思って、代表的な大和英辞典で「やはり」をひいてみる。

- ①また、同様に
- ②依然として
- ③けっきょく
- ④……にかかわらず

それぞれに英訳がついているから、これらの説明もただの言いかえには終わっていない。しかし、前にあげたような国語辞書があらわれてくると、和英辞書も本格的な語義分析をしなくてはならなくなるだろう⁹。

こういう辞書にある意味とは違った使われ方もしているのが「やはり」「やっぱり」だ。語呂のために、たいした意味もないのに使われることばはどここの国にもあるが、日本語ではとくによく発達しているように思われる。意味らしい意味のないことばがほしいのだ。

2020年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語（No.2）

「どうしても行きます」というのでは調子がきつすぎる。

「やっぱり行きたいと思います」

なら当りがやわらかになる。ちょっとテレた気持も顔をのぞかせていて愛嬌がある。

こういうほとんど意味のない口ぐせのことばをわれわれはいろいろもっている。ちょっと頭に浮ぶものだけでも――、

どうも（どうも）、とにかく、つまり、要するに、いわば、どちらかというと

などがあるが、いちばんよく使われるのはとなると、やっぱり、「やっぱり」か。

出典：外山滋比古(2013)『おしゃべりの思想』ちくま文庫、64-67

問1 下線1の外国人とはどのような外国人かを分かりやすく説明した上で、「ある日本人」に質問した理由を述べなさい。

問2 外国人に「やっぱり」について質問された日本人がどうなったか、下線2の部分を説明しなさい。文末は「～、あれこれ説明してみた。」とすること。

問3 下線3を分かりやすい言葉で言い換えなさい。

問4 < 4 >に適切な語を次の中から選び、その記号を書きなさい。

ア. それに イ. それが ウ. そこで エ. そこに

問5 下線5と同じ用法の文を選び、その記号を書きなさい。

- ア. 先生は子どもたちに花の種をあげている。
- イ. 電車に乗った人が荷物をたなにあげている。
- ウ. この会社はたくさんの利益をあげている。
- エ. 警察は事故の理由を何点かあげている。

問6 下線6には筆者のどのような意見がこめられているか、説明しなさい。

2020年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語（No.3）

問7 < 7 >に入れられない語を選び、その記号を書きなさい。

ア. なめている イ. 食べている ウ. 経験している エ. 味わっている

問8 下線8で筆者は何を言おうとしているのか、説明しなさい。

問9 下線9と筆者が述べている理由を、説明しなさい。

問10 本文中で使われている「やっぱり」のうち、a、b、cの用法はどのように説明できるか。本文中の説明を参考にはできるが、「意味らしい意味がない」とすることはできない。

2020年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語（No.4）

問題Ⅱ. 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

なによりも「国文法」が不幸であったのは、そもそも「文法」という観念それじしんが西洋からの輸入学問であるゆえに、日本語という言語を西洋の文法、とりわけ英文法にあわせようとしたことにある。なるほど、名詞、動詞、形容詞、副詞といった「品詞」の分類などはどの言語でもだいたいできるだろう。ブルネイにいても、タンザニアにいても「水」に対応する名詞はあるだろうし「飲む」を意味する動詞もあるだろう。したがって「水を飲む」という文は、おそらくかなりおおくの言語に翻訳可能であるはずだ。

しかし、ひとつの「文」がつねに「主語」と「述語」でつくられる、という英文法のかんがえかたが日本語にもあてはまるのだろうか。明治以来、日本の文法学者たちは英文法のなかにながちりと組みこまれたこの「主語」「述語」関係が日本語のなかにもあるはずだ、というので血眼になってきた。たとえば、「水を飲む」という単純な文ひとつとりあげても、ここには「主語」がない。英文法をモデルにして日本語「文法」を研究してきた学者たちはすっかりあわててしまった。だが、英語が「主語」「述語」の組み合わせでできあがっているから、日本語もそうであるはずだ、とか、そうあるべきだ、などというのはたいへんな錯覚である。そんな努力をしたって、もともと言語のなりたちがちがう。なにもかも先方にあわせることなどできた相談ではないのである。日本語には英語のような「主語」「述語」に相当する関係は存在していない。

そのことをはっきりと宣言したのが三上章先生であった。「日本文法入門」と副題のついた先生の名著『象は鼻が長い』の刊行は昭和三五（一九六〇）年。これに先行して服部四郎先生など日本語に「主語」はない、とかかんがえた学者がいたが、学校文法の主流になってきたのは英語からの類推で日本語を無理に「主語」「述語」という枠のなかに押しこめようとする学説であった。それがわれわれの「文法」を退屈にただけでなく、なんとなく要領をえないものにしてしまった。

このことについてはすでに谷崎潤一郎が『文章読本』（一九三四）のなかで、「今日学校で考^えている国文法と云^うふものは……国語の構造を西洋流に偽装しまして、強^ひて……法則を作った」ものであり「たと^えば主格のないセンテンスは誤りである」と教えていても、現実にはそんなわけにはゆかないと指摘している。

じっさい、わたしなどの経験では日本語のできる外人のおおくは「あなたの名前はなんですか？」とか「あなたは奈良にいきましたか？」などと、やたらに「あなた、あなた」と「主語」のついたことばを口にする。ふだんの会話で「あなた」とか「わたし」とか、いちいち「主語」を明確にしなくてもはなしは通じるし、ときには「あなた」の連発はいささか不愉快でもある。この不自然さはこれらの外人に日本語をおしえた先生が日本語の「主語」を学校文法にしたがってたたきこんだからなのではないかとわたしはおもっている。「主語」をいれることはまちがいでない。まちがいでないが、そんなものはなくても日本語は通じるようにできあがっているのだ。極端ないいかたをすれば、つねに「主語」がなければ「文」が成立しない英語のほうがおかしいのである。英文法をモノサシにして国文法を無理に「主語」「述語」の世界に押しこめるのではなく、すくなくともふだんの言語生活では日本語独自の法則なり目安なりをかんがえるほうが健全なのではないのか。

2020年度大学院修士課程一般入学試験（第Ⅰ期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語（No.5）

英文法を絶対基準にして、日本語のなかに関係代名詞がないといって当惑したり劣等感をもったりする学者もいたらしいが、それはあたかもウマがウシをみて、ウシには角がある、なぜおれには角がないんだろう、と悩むようなもので、もともと無意味な設問なのである。それともふつうの日本語会話のなかで「こないだ食べたソバはうまかったねえ」と友人に声をかけるとき、主語、述語、関係代名詞をはっきりさせるためにいちいち「わたしがあなたといっしょにこのあいだ食べたトコロのソバはおいしかったですね」とでもいわせたいのだろうか。こういうことをマジメに論じている先生にはあんまり感心できない。

出典：加藤秀俊（2014）『なんのための日本語』中公新書

問1 筆者の主張を70～100字で要約しなさい。

問2 筆者の主張に対する自分の意見を、理由を述べながら300～350字でまとめなさい。

問3 下線部は筆者の推測だが、あなた自身の考えはどうか、述べなさい。また、実際に自分が日本語指導をする場合はどうすべきだと考えるか、述べなさい。